

41106

教科書文庫

4
670
32-1937
20000 14547



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

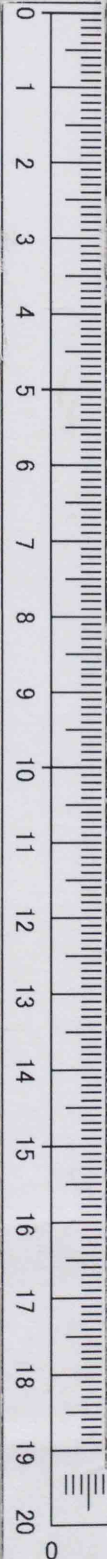
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
670
32-1937
2000014547

高等小學
簿記教科書

第一學年兒童用



広島大学図書
2000014547



文 部 省

375.9
M014

資料室

教科書文庫
4
670
32-1937
2000014547

高等小學 簿記教科書

第一學年兒童用



広島大学図書
2000014547



文 部 省

廣島大學
圖書印圖



現金出納帳

1

昭和 △年	摘要	収入	支出	残高
5	1 元入金	4000.00		4000.00
"	3 造作買入代		500.00	3500.00
"	5 自轉車計量器等買入代		480.00	3020.00
"	7 水野商店ヨリ商品買入代		1620.00	1400.00
"	10 山本商店へ商品賣渡代	936.80		2336.80
"	12 雑費支拂高		21.50	2315.30
"	22 西山商店へ買掛金1一部支拂		1500.00	815.30
"	23 本日小費高	340.00		1155.30
"	27 山田商店ヨリ買掛金入金	424.00		1579.30
"	31 本月分諸入費支拂	434.00		1589.30
	家賃 50.00			
	給料 " 30.00			
	雑費 " 35.00			
"	本日残高		115.30	1464.00
"			1464.00	0
		5700.80	5700.80	
6	1 前月繰越	1464.00		1464.00

仕入帳

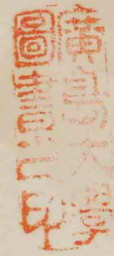
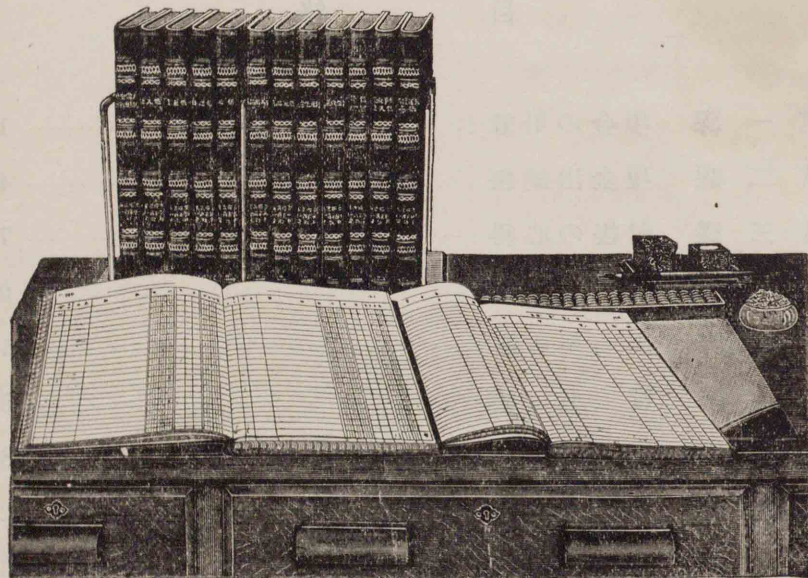
1

昭和 △年	摘要	内譯	金額
5	7 山田商店 現金買		
	村山 三等米 30石 @430.00	900.00	
	村山 四等米 20石 @29.40	588.00	1488.00
"	10 西山商店 掛買		
	蓬莱 三等米 50袋 @11.40		570.00
"	15 西山商店 値引		
	蓬莱 三等米 1袋 = 27.40 @ 0.40 値引付ル		20.00
"	25 北川商店		
	朝鮮 四等米 40石 @431.50		1260.00
	代金1内1600.00現金拂 残掛		
			3318.00
			20.00
			3298.00

目 録

第一課	現金の計算	1
第二課	現金出納帳	4
第三課	記帳の心得	7
第四課	簿 記	9
第五課	仕 入 帳	11
第六課	賣 上 帳	15
第七課	日 記 帳	18
第八課	元 帳	22
第九課	財産と資本	26
第十課	取 引	28
第十一課	取引と帳簿	29
第十二課	決 算 (その一)	32
第十三課	決 算 (その二)	34
第十四課	決 算 (その三)	37
第十五課	記帳練習例題	40
第十六課	單式簿記と複式簿記	46
第十七課	勘 定 口 座	48
第十八課	取引の二重性	50
第十九課	仕 譯	52

帳簿の圖



第一課 現金の計算

1. 現金の收支 四月の日記から、現金の收支に係る事柄を抜出して見ると、次のやうな記入があつた。

- 1日 母ヨリ小遣トシテ金貳圓ヲ戴ク。
- 3日 雑記帳参册買入レ、此代金参拾錢ヲ支拂フ。
- 7日 インキ壹箇・ペン先貳本買入レ、此代金拾錢ヲ支拂フ。
- 12日 半紙壹帖買入レ、此代金六錢ヲ支拂フ。
- 16日 五月號雜誌壹册買入レ、此代金参拾五錢ヲ支拂フ。
- 18日 伯母ヨリ金壹圓ヲ戴ク。
- 24日 運動靴壹足買入レ、此代金七拾錢ヲ支拂フ。
- 29日 毛筆壹本買入レ、此代金拾五錢ヲ支拂フ。
- 30日 郵便貯金トシテ金壹圓ヲ郵便局ニ預入ル。

2. 普通の計算法 今以上の記事から、現金の收支を計算すると、次のやうになる。

$$2\text{圓}-30\text{錢}-10\text{錢}-6\text{錢}-35\text{錢}+1\text{圓}-70\text{錢}-15\text{錢}-1\text{圓}$$

$$=34\text{錢}$$

即ち、四月三十日には参拾四錢だけ手許に残つてゐることがわかる。しかし、このやうな計算をしたのでは、四月中に収入が何程あり、又支出が何程あつたかを知るのに不便である。

3. 簿記計算の基礎 そこで、収入と支出とを區別して計算すると、次のやうになる。

収入 2圓+1圓=3圓

支出 30錢+10錢+6錢+35錢+70錢+15錢+1圓
=2圓66錢

この計算では、收支の各總額がわかることは勿論、兩者の差引計算を行へば、手許にある残金をも知ることが出来る。しかし、收支の行はれた経過が明らかでない。それ故に、これを次のやうな形式

三	二	二	十	十	十	七	三	一	月
十	十	十	八	六	二				日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	
								二	收
								〇〇	
								〇	入
								〇	
								一	支
〇	一	七	三	一	三				
〇	五	〇	五	六	〇	〇			
								〇	出

で行ふことにする。

即ち、この形式で計算すると、收支の各總額もその経過も、共に明らかにせられる長所がある。郵便貯金通帳は、この形式と同じである。

第二課 現金出納帳

4. 現金出納帳 現金の取扱には、間違や不正が起りやすいから、その收支を厳格にし、現金出納帳を設けて、これを正しく記入することが肝要である。現金出納帳は、第一課で示した形式を、收支の説明と日々の残高とが、一見直ちにわかるやうに、多少變形したものである。

5. 記入法 現金の收支が起つたとき、その日附や理由と共に、收支の金額をそれぞれの欄に記入し、その度毎に残高を算出するか、又は毎日一回その日の最終残高を算出して、これを残高欄に記入する。記入に當つては、収入は實際に現金を受取つてから記帳し、支出は記帳を終つてから現金を拂渡すやうにすべきである。

6. 締切の仕方 現金出納帳は、通常毎月末に締切られる。締切に當つては、その日の残高が手許にある實際の金高と一致するか否かを確めた上、摘要欄に「本日残高」と記載し、支出欄にその金額を赤インキで記入する。さうすると、収入欄の合計と支出欄の合計とが一致するから、赤の單線を引き、その下に合計額を記入する。次に摘要欄を除き、

その他には赤の二重線を引いて締切る。それから、月末の残高を翌月最初の日附で、摘要欄に「前月繰越」と書き、収入欄と残高欄とに記入する。その上で、引續き翌月に起る收支を記入するのである。

現金出納帳

1

昭和 △年	摘要	収入	支出	残高
4	1 母ヨリ戴ク	2 00		2 00
"	3 雑記帳 3 冊代		30	1 70
"	7 インキ・ペン先代		10	1 60
"	12 半紙 1 帖代		6	1 54
"	16 五月號雑誌代		35	1 19
"	18 伯母ヨリ戴ク	1 00		2 19
"	24 運動靴 1 足代		70	1 49
"	29 毛筆 1 本代		15	1 34
"	30 郵便貯金 = 預入ル		1 00	34
"	" 本日残高		34	0
		3 00	3 00	
5	1 前月繰越	34		34

練習問題

次の現金収支を現金出納帳に記入して、締切を行へ。

- 4月1日 母ヨリ小遣トシテ戴ク、2圓也。
- 4月5日 ペン軸・ペン先買入ル、18錢也。
- 4月6日 教科書買入ル、1圓50錢也。
- 4月10日 繪具買入ル、20錢也。
- 4月17日 郵便ハガキ貳枚買入ル、3錢也。
- 4月24日 叔父ヨリ戴ク、50錢也。
- 4月28日 雜記帳壹冊買入ル、5錢也。

第三課 記帳の心得

帳簿に記入するには、次の諸點を心得てゐなければならぬ。

1. 帳簿には、順序を追つて毎頁に丁數を書入れること。
2. 假名は片假名を用ひ、文字は楷書又は行書で明瞭に書くこと。
3. 文字の大いさは、普通行線間の二分の一位とし、必要に應じて三分の二位の大いさとし、下の行線に接しさせて書くこと。
4. 金額を書く場合に、一・二・三・十・万の數字は壹・貳・參・拾・萬を用ひること。
5. 數字は圓以上三桁毎にコンマ(,)で區切ること。
6. 文字の誤を訂正するには、赤の二重線を引いて消し、その上部に正しい文字を書く。數字は假令その中の一數字だけの誤でも、その數全體を消して訂正すること。訂正に當つて、ゴムや藥品で消し、小刀で削り取り、又は貼紙等をしてはならない。
7. 一頁に多數の誤記が生じて見苦しくなつた

ため、次頁へ書改めようとするには、赤で×印を記し、決してその頁を裂き捨てないこと。

8. 一つの事柄を二頁に跨つて記入しないこと。そのため頁の終に、餘白が出来たときには、最後の行で次頁への繰越手續をとり、餘白の部分は斜線を引いて、消して置く。
9. 記入を簡略にするため、＃(圓)・@(替)・#(第・號)・“(同上)等の符號を用ひる。例へば、
 ¥3.50は參圓五拾錢 @¥6.10は六圓拾錢替
 #2は第二號 “日は同日
 のことである。

第四課 簿記

7. 簿記とは何か 人は誰でも多少の財産を有してゐる。この財産は、現金を受拂し物品を賣買若しくは消費すること等によつて、絶えず増減し變化してゐる。このやうな財産の變動を一々記憶してゐることは困難である。そこで、これ等の記録を作ると共に、何時でも財産の状態を知ることが出来るやうな工夫が必要である。このために考へられたのが簿記である。即ち、簿記とは財産に増減變化が起つた時、それを帳簿に記録計算して、その結果を明らかにすることである。

8. 簿記の必要 我々の生活でも、日々の記録によつて過去を顧みることはよい事である。例へば、日常の小遣を小遣帳に記入して見れば、小遣が思ひのほか多く掛つたとか、又後から考へると無駄遣であつたといふやうなことがわかり、過去を反省して將來の無駄遣を避け、それを有益に遣つて行くことも出来るし、又次の豫算を立てる基礎とすることも出来るのである。商工業その他の事業を經營するに當つては、會計記録を作ることが一層大切である。何故ならば、これによつて日々

の營業状態を知ることが出来ると共に、事業の経過を顧み、それが如何なる結果を生んだかを確めて、將來如何なる方針を採るべきかが、判断せられるからである。故に簿記なしに事業を合理的に經營することは困難である。

第五課 仕 入 帳

9. 帳簿の種類 商業を営む者の會計記録として必要なのは、現金收支の記録に次いで、商品の賣買及び取引先との貸借の記録である。商品の賣買を記録する普通の帳簿としては仕入帳及び賣上帳の二者があり、又取引先との貸借を記録する帳簿としては日記帳及び元帳の二者がある。以下これ等の各帳簿について順次説明しよう。

10. 仕入帳記入法 仕入帳は仕入商品の詳細即ち仕入日・仕入先・品名・數量・單價・金額・代金支拂方法並に引取諸掛等を記録する帳簿である。この帳簿は次に示すやうな形式を備へ、仕入月日を日附欄に、仕入先・品名・數量・單價及び代金支拂方法等を摘要欄に、又その價額を金額欄にそれぞれ記入する。内譯欄には、同時に二口以上の商品を仕入れたとき、その内譯金額を記入する。仕入先へ返品したり、又は代金の値引をさせた場合には、仕入金額から差引く意味で、この帳簿に赤インキで記入して置く。

11. 締切の仕方 仕入帳を締切るには、金額欄の合計を求め、これを最後の行に記入した上、その上

に単線を、下に複線を引く。このため、頁に餘白を生じたときには、その部分の摘要欄に斜線を引いて消し、後から記入の出来ないやうにして置く。返品や値引のあつたときには、これ等の合計額を總仕入高から差引いて、純仕入高を求めた上、最後の行で締切る。

[例] 5月15日 福永商店ヨリ次ノ通り現金ニテ買入ル。

浴衣地 50反 @ ¥1.20 ¥60.00

5月23日 大原商店ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。

紅 絹 10疋 @ ¥9.50 ¥95.00

秩父銘仙 20" @ "16.20 "324.00

右引取賃 ¥5.00 ヲ現金ニテ支拂フ。

5月26日 上野商會ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。

浴衣地 100反 @ ¥1.25 ¥125.00

久留米緋 50" @ "2.85 "142.50

仕 入 帳

1

昭和 △年	摘 要	内 譯	金 額
5 15	(福永商店) 現金買 浴衣地 50反 @ ¥1.20		60 00
" 23	(大原商店) 掛 買 紅 絹 10疋 @ ¥9.50 秩父銘仙 20" @ "16.20 引取賃	95 00 324 00 5 00	424 00
" 26	(上野商會) 掛 買 浴衣地 100反 @ ¥1.25 久留米緋 50" @ "2.85	125 00 142 50	267 50
			751 50

練習問題

次の仕入取引を仕入帳に記入の上、これに締切を行へ。

5月1日	原田商店ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。
	越後四等米 10石 @ ¥29.50 ¥295.00
	茨城五等米 10" @ "28.25 "282.50
5月12日	西野商店ヨリ次ノ通り現金ニテ買入ル。
	千葉糯五等 2石 @ ¥29.00 ¥58.00
5月25日	木村商店ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。
	岩手四等米 5石 @ ¥28.80 ¥144.00
	" 五等米 5" @ "28.20 "141.00

第六課 賣上帳

12. 賣上帳 賣上帳は賣上商品の詳細、即ち賣渡日・賣渡先・品名・數量・單價・金額及び代金受取方法等について記録する帳簿である。この帳簿の形式・記入法・締切法等は總べて仕入帳と變らない。又、戻り品を受入れ、或は代金の値引をした場合の取扱法も、仕入帳の場合と同じである。

13. 小賣 小賣については、別に小賣控又は小賣傳票を作り、或は小賣記入帳を設けて、販賣の度毎にこれに記入して置き、毎日その合計額を以て賣上帳に記入する。

[例] 5月10日 玉屋へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。

子供用靴下 30打 @ ¥3.00 ¥90.00

5月11日 本日現金小賣高合計 ¥15.80 也。

5月20日 野口商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。

婦人用肩掛 50枚 @ ¥1.40 ¥70.00

男物洋傘(並) 50本 @ "2.50 "125.00

5月20日 本日現金小賣高合計 ¥16.23 也。

5月23日 野口商店ヨリ次ノ通り返品シ來ル。

婦人用肩掛 10枚 @ ¥1.40 ¥14.00

5月23日 本日現金小賣高合計 ¥18.55也。

賣上帳

1

昭和 △年	摘	要	内 譯	金 額
5 10	(玉 屋)	掛 賣		
	子供用靴下 30打	@ ¥3.00		90 00
" 11	本日小賣高	現金賣		15 80
" 20	(野口商店)	掛 賣		
	婦人用肩掛 50枚	@ ¥1.40	70 00	
	男物洋傘(並) 50本	@ ¥2.50	125 00	195 00
" "	本日小賣高	現金賣		16 23
" 23	(野口商店)	戻 り		
	婦人用肩掛 10枚	@ ¥1.40		14 00
" "	本日小賣高	現金賣		18 55
		總賣上高		335 58
		(差引)戻り高		14 00
		純賣上高		321 58

練習問題

次の賣上取引を賣上帳に記入し、これに締切を行へ。

5月2日 山田商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。

粗 糖 30俵 @ ¥15.20 ¥456.00

5月2日 本日現金小賣高合計 ¥11.60也。

5月7日 川合商店へ次ノ通り現金ニテ賣渡ス。

耕地白糖 10俵 @ ¥20.00 ¥200.00

粗 糖 10 " @ ¥15.10 ¥151.00

5月7日 本日現金小賣高合計 ¥15.25也。

5月13日 堀内商店へ掛ニテ賣渡ス。

耕地白糖 50俵 @ ¥20.10 ¥1,005.00

第七課 日記帳

14. 日記帳 商品を掛で賣れば賣渡先に貸が出来、又商品を掛で買へば仕入先に借が出来。日記帳は、他人との間に起つたこのやうな貸借を日附順に記入する帳簿である。

15. 記入法 貸又は借が生じたとき、又はそれ等を決済したときに、その日附・相手方の姓名、取引の要領、貸借の區別及び取引の金額を記入する。この帳簿の締切は、金額欄の合計を求め、これを最後の行に記入して、上下に單複の赤線を引くに過ぎない。

16. 簿記の貸借 こゝで注意すべきことは、簿記上では貸借といふ語が、取引先の側から見て使はれることである。例へば、當店が商品を掛で買った時には、取引先は當店に對して貸したことになるから、その商店貸として記帳し、この買掛金を支拂へば、取引先は前と反對の地位に立つから、その商店借と記帳する。又商品を掛で賣渡せば、取引先は當店に對して借りたことになるから、その商店借として記帳し、この賣掛金の支拂を受ければ、相手方は前と反對の地位に立つから、その商店貸

と記帳する。

[例] 6月3日 松原商店ヨリ次ノ通り掛ニテ
買入ル。

北海塊炭 30噸 @ ¥17.00 ¥510.00

〃 粉炭 30〃 @〃10.00〃300.00

6月6日 梅澤商店へ次ノ通り掛ニテ賣
渡ス。

北海塊炭 10噸 @ ¥19.00 ¥190.00

6月10日 竹田工場へ次ノ通り掛ニテ賣
渡ス。

北海粉炭 20噸 @ ¥12.00 ¥240.00

6月17日 松原商店ヨリ次ノ通り掛ニテ
買入ル。

磐城塊炭 30噸 @ ¥17.00 ¥510.00

6月22日 梅澤商店へ次ノ通り掛ニテ賣
渡ス。

磐城塊炭 10噸 @ ¥19.00 ¥190.00

6月28日 松原商店へ買掛金ノ内 ¥800.00
ヲ現金ニテ支拂フ。

6月30日 賣掛金ヲ現金ニテ受取ル。

梅澤商店ヨリ ¥190.00

竹田工場ヨリ 〃240.00

日記帳

1

昭和 △年	摘要	元 丁	金額
6 3	(松原商店) 貸 北海塊炭・同粉炭各30噸掛買	1	810 00
" 6	(梅澤商店) 借 北海塊炭10噸掛賣	2	190 00
" 10	(竹田工場) 借 北海粉炭20噸掛賣	3	240 00
" 17	(松原商店) 貸 磐城塊炭30噸掛買	1	510 00
" 22	(梅澤商店) 借 磐城塊炭10噸掛賣	2	190 00
" 28	(松原商店) 借 買掛金内拂	1	800 00
" 30	(梅澤商店) 貸 賣掛金一部回收	2	190 00
" "	(竹田工場) 貸 賣掛金回收	3	240 00
			3,170 00

練習問題

次の諸取引を日記帳に記入の上、これに締切を行へ。

6月1日 製粉會社ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。

鷺印小麥粉 500袋 @ ¥3.20 ¥1,600.00

6月5日 岡野商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。

鷺印小麥粉 300袋 @ ¥3.50 ¥1,050.00

6月12日 製粉會社ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。

鷺印小麥粉 500袋 @ ¥3.40 ¥1,700.00

6月25日 製粉會社へ買掛金ノ内 ¥1,600.00ヲ現金ニテ支拂フ。

6月28日 岡野商店ヨリ賣掛金ノ内 ¥550.00ヲ現金ニテ受取ル。

第八課 元 帳

17. 元帳 日記帳は取引先との貸借を、その生じた順に記入するものであるから、各取引先別の貸借がどうなつてあるかを、これによつて知ることは出来ない。随つて、これを明らかにするには、別に帳簿を設けて、取引先別に貸借の記録計算をしなければならない。元帳はこの目的のために使用せられる帳簿で、日記帳に記入せられた貸借を、各取引先毎に口座を設けて、區別記帳するものである。元帳各口座の形式は、日附取引の要領、日記帳丁数及び金額を記入する諸欄を備へ、金額欄は更に借方・貸方・残高の三つの欄に分たれる。元帳への記入は、直接に行はないで、必ず日記帳から移記する。これを轉記といふ。日記帳から元帳へ轉記が行はれたときには、日記帳の元丁欄へはその口座の頁数を記入して轉記済の印とし、同時に元帳には日記帳の頁数を記入し、雙方突合はせの便に供する。

18. 締切の仕方 この帳簿の締切方は、残高がある口座は、摘要を「次期繰越」として、その残高を借方・貸方いづれか少額の方へ、赤インキで記入する。

さうすると、貸借兩金額欄の合計が平均するから、次の行へ貸借雙方共、合計額を記入して締切る。

この際、残高のない口座は、貸借が既に決済せられてあるものであるから、そのまま平均する。故に、雙方の合計額を算出して締切るだけでよい。

さうして朱記せられた残高は、次期最初の日附で朱記せられたと反對の金額欄並に残高欄に、摘要を「前期繰越」として黒インキで記入する。この兩記入は共に日記帳から轉記したのではないから、日丁欄には√印(突合はせ済符號又はチェックマーク)を付けて置く。

[例] 前に例で示した日記帳から轉記した元帳口座の雛形は、次の通りである。

元 帳

松原商店

1

昭和 △年	摘要	日 丁	借方	貸方	借 又 貸	残 高
6	3	商品掛買	1		810 00	貸 810 00
"	17	" "	"		510 00	" 1,320 00
"	28	現金内拂	"	800 00		" 520 00
"	30	次期繰越	✓	520 00		0
			1,320 00	1,320 00		
7	1	前期繰越	✓		520 00	貸 520 00

梅澤商店

2

昭和 △年	摘要	日 丁	借方	貸方	借 又 貸	残 高
6	6	商品掛賣	1	190 00		借 190 00
"	22	" "	"	190 00		" 380 00
"	30	現金回収	"		190 00	" 190 00
"	"	次期繰越	✓		190 00	0
			380 00	380 00		
7	1	前期繰越	✓	190 00		借 190 00

竹田工場

3

昭和 △年	摘要	日 丁	借方	貸方	借 又 貸	残 高
6	10	商品掛賣	1	240 00		借 240 00
"	30	現金回収	"		240 00	0
			240 00	240 00		

練習問題

前課の練習問題につき、元帳轉記をなし、これに締切を行へ。

第九課 財産と資本

19. 資産と負債 簿記では財産を資産と負債とに大別する。資産とは現金及び現金に換へることの出来るものを云ひ、負債とは将来一定の金額を支拂はなければならない債務をいふ。例へば、商品や土地・家屋等はこれ等を處分して現金に換へることが出来るから資産であり、又賣掛金や貸付金等は形は無くとも、これを取立てて現金に換へることが出来るから資産である。これに反し、買掛金や借入金等は将来これ等を支拂はなければならないから負債である。

財産	資産	現金・商品・什器・土地・家屋等……有形物
		賣掛金・貸付金等……………無形物
	負債	買掛金・借入金等……………無形物

20. 資本 一商人の財産が資産のみからなるときには、その總額を資本といふ。しかし、財産が資産と負債とから成るときには、資産の一部は負債を返済するために他人へ引渡さなければならないから、この場合には資産額から負債額を差引いたものが資本である。即ち、

$$\text{資産} - \text{負債} = \text{資本}$$

このやうに、簿記上の資本とは、現金や商品の如き又土地や家屋の如き財産そのものを指すのではなくて、たゞ資産額と負債額との差額を指すに過ぎないことを注意しなければならない。かく資本は資産と負債との差額であるから、もしこれ等両者が同額であれば、資本はない譯であり、又負債が資産よりも大であれば、資本がないばかりでなく、負債超過で、それは破産の危険があることを示すものである。

練習問題

或商人が次のやうな財産を有するときに、その資本は各何程であるか。

- イ、現金 ¥1,300.00 什器 ¥ 700.00 土地家屋 ¥3,000.00
- ロ、商品 ¥5,000.00 賣掛金 ¥2,500.00 買掛金 ¥3,500.00
- ハ、株券 ¥2,650.00 銀行預金 ¥1,350.00 借入金 ¥1,000.00
- ニ、銀行預金 ¥2,500.00 什器 ¥1,000.00 商品 ¥3,000.00
買掛金 ¥4,500.00 借入金 ¥2,000.00
- ホ、賣掛金 ¥1,500.00 商品 ¥1,500.00 借入金 ¥4,000.00

第十課 取引

21. 取引 簿記では財産に變動をひき起す事柄を取引といふ。例へば、現金の收支や物品の賣買等はいづれも取引である。しかし、簿記でいふ取引と、通俗にいふ取引とは、必ずしもその範圍が同じでない。例へば、家屋の焼失や現金又は物品の盜難等は通俗には取引といはないが、これ等は財産に變動を起す事柄であるから、簿記では取引になる。これに反して、家屋の貸借の如きは、通俗には取引といふが、これは財産に變動をひき起さないから、簿記では取引にならない。

取引が生ずれば財産に變動が起るから、必ずこれを帳簿に記入し、如何に少額の取引であつても、これを洩らしてはならない。

練習問題

次の諸事項は取引であるかどうか。

- | | |
|------------------|------------|
| イ、買掛金ヲ支拂フ。 | ロ、商品ヲ賣渡ス。 |
| ハ、家屋新築ノタメ土地ヲ借入ル。 | ニ、使用人ヲ雇入ル。 |
| ホ、地代ヲ支拂フ。 | ヘ、給料ヲ支拂フ。 |

第十一課 取引と帳簿

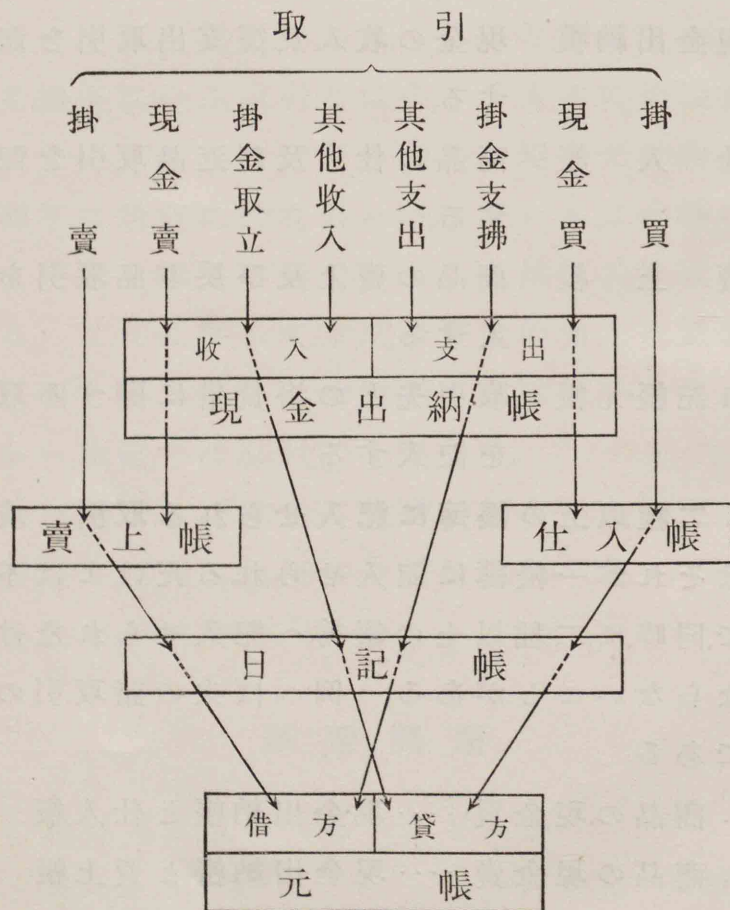
22. 帳簿と取引 以上説明して來た各帳簿へ記入する取引は、次の通りである。

現金出納帳	現金の収入及び支出取引を記入する。
仕入帳	商品の仕入及び返品取引を記入する。
賣上帳	商品の賣上及び戻り品取引を記入する。
日記帳・元帳	取引先との掛貸借に關する取引を記入する。

23. 二種以上の帳簿に記入せられる取引 或取引はそれが一帳簿に記入せられるだけでは不十分で、同時に二種以上の帳簿へ記入せられなければならないことがある。例へば次の諸取引の如きである。

1. 商品の現金買……現金出納帳と仕入帳
2. 商品の現金賣……現金出納帳と賣上帳
3. 商品の掛買……仕入帳と日記帳・元帳
4. 商品の掛賣……賣上帳と日記帳・元帳
5. 買掛金の支拂……現金出納帳と日記帳・元帳

6. 賣掛金の取立……現金出納帳と日記帳・元帳
 これ等の關係を注意しないと、正しい記帳計算は望めない。今、以上の記入關係を圖解して見よう。



練習問題

次の諸取引はそれぞれ如何なる帳簿に記入せられるか。

- イ、商品 ¥200.00 を掛金で買入ル。
- ロ、商品 ¥120.00 を掛金で賣渡ス。
- ハ、商品 ¥200.00 を買入レ、代金ノ内 ¥80.00 を現金で支拂ヒ、残額を掛金トス。
- ニ、商品 ¥100.00 を賣渡シ、代金ノ内半額ハ現金で受取り、半額ハ掛金トス。
- ホ、買掛金 ¥200.00 を現金で支拂フ。
- ヘ、給料 ¥50.00 を現金で支拂フ。
- ト、賣掛金 ¥120.00 を現金で受取ル。
- チ、公債利子 ¥20.00 を現金で受取ル。

第十二課 決 算 (その一)

24. 決算の意義 一定期末に營業の結果どんな成績を収め得たかを確認、併せてその時の財産状態を明らかにする手續を決算といふ。商人は、年に一回は一定の期日に決算を行はなければならない。決算には種々の手数を要するから、決算日は成るべく營業の閑散な時期の日を選ぶがよい。

25. 決算手續 決算は(1)各種帳簿の締切(2)商品その他の棚卸(3)決算表の作成なる三つの手續を経て行はれる。しかし、帳簿の締切手續については、既に述べたから、こゝにはその他の手續について述べよう。

26. 棚卸 棚卸とは、商品その他の物件を實地に検査して、その品質や數量を確認、又その價額を見積ることをいふ。商品には保管中に紛失・破損・腐敗等が生じ、又店曝・流行遅れとなるものが出来る。更に建物や什器は古くなるに従つてその價値が減じ、又商品や公債證書・株券等には絶えず値上りや値下りが生ずる。故に決算の際には、これ等のものの現在價額を定めなければ、正しい營業成績も正しい財産状態も知ることは出来ない。

27. 棚卸表(棚卸目録) 棚卸の結果を記載した表のことを棚卸表又は棚卸目録といふ。

棚 卸 表

昭和△年9月30日

大村商店

摘	要	内 譯	金 額
(商 品)			
麥 酒 (4打入)	15箱 @ ¥ 15.00	225 00	
洋 酒	20打 @ " 36.00	720 00	
罐 詰 (大罐)	10箱 @ " 24.00	240 00	
" (小罐)	7 " @ " 15.00	105 00	
雜 品	チーズ・バター・ミルク・シロップ等	241 60	1,531 60
(什 器)			
	金錢登録器・机・椅子・自轉車其他5點		
	買入原價	840 00	
	(差引) 当期減價	20 00	820 00
			2,351 60

練習問題

昭和△年10月31日を決算日とし、次の資料から決算表を作成せよ。

現金手許在高		¥ 1,631.00
元帳残高	やまと屋商店(貸方)	" 680.00
	江戸屋商店(貸方)	" 595.00
	錢五商店(借方)	" 400.00
	小賣掛貸合計	" 15.00
商品棚卸高		" 1,810.00
什器棚卸高		" 696.50
期首資本金		" 3,120.00

第十四課 決算(その三)

31. 損益計算書の作り方 決算表を作れば、期間中の純損益は明らかになるが、この表からはその内容を知ることは出来ない。これを知るには、損益計算書を作らなければならない。損益計算書は、一方に利益、他方に損失の項目及び金額を掲げ、この兩者の差額を当期純利益又は純損失として金額の小さい方に記入し、雙方を平均させたものである。

32. 商品販賣益の出し方 商店の利益は主として商品販賣益であり、損失は營業上生ずる費用であるから、損益計算書を作るには、先づこれ等を確めなければならない。

商品販賣益は、次のやうにして計算せられる。

$$\begin{aligned} & \text{賣上高} - \text{賣上原價} (\text{繰越高} + \text{仕入高} - \text{期末棚卸高}) \\ & = \text{販賣益} \end{aligned}$$

33. 營業費の確め方 營業費の中で、それが地代・家賃・瓦斯電燈料・文房具費・通信費・税金・旅費・給料・保険料・廣告料等のやうに、支出を伴ふものは、現金出納帳(又は特に設けられた營業費記入帳)から調

べ出す。又家屋や什器の減價額のやうに、支出を伴はないもので、棚卸表に掲げられてゐるものは、同表から確める。

なほ、その他の書類をも調べて、損益項目が一つも洩れないやうに記入することが肝要である。

34. 損益計算の困難 今まで述べた記帳法では、営業期間が長きに亘るか、又は営業が複雑になつて損益項目が多くなると、これ等を一つも洩らさない正しい損益計算書を作ることは非常に困難で寧ろ不可能なことである。

損益計算書

自昭和△年9月1日

至昭和△年9月30日

大村商店

損 失	金 額	利 益	金 額
(営業費)		(商品販賣益)	
家 賃	80 00	賣上高	¥3,545.40
雑 費	64 83	賣上原價	
什器減價	20 00	繰越高	¥1,205.00
	164 83	仕入高	"3,625.00
当期純利益	82 17		¥4,830.00
		期 末 棚卸高	"1,531.60 ¥3,298.40
	247 00		247 00

練習問題

次の資料から10月1日より10月31日に至る営業期間の損益計算書を作成せよ。

商品前期繰越高	¥ 1,760.00
純 仕 入 高	" 2,260.00
純 賣 上 高	" 2,555.50
商品期末棚卸高	" 1,810.00
家賃支拂高	" 50.00
給料支拂高	" 80.00
雑費支拂高	" 58.00

第十五課 記帳練習例題

第一例題

現金出納帳
 使用帳簿 仕入帳 賣上帳
 日記帳 元帳

- 10月1日 現金 $\yen 2,000.00$ ヲ元入レシテ、白米卸小賣商ヲ始ム。
- 10月1日 計量器・自轉車・其他店用器具一式ヲ買入レ、此代金 $\yen 350.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 10月2日 精米會社ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。
 二等白米 10石 @ $\yen 32.00$ $\yen 320.00$
 三等白米 20 " @ " 30.50 " 610.00
- 10月5日 本日現金小賣高合計 $\yen 62.94$ 也。
- 10月10日 福田商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。
 二等白米 5石 @ $\yen 33.50$ $\yen 167.50$
 三等白米 10 " @ " 32.00 " 320.00
- 10月17日 本日現金小賣高合計 $\yen 97.11$ 也。
- 10月23日 富永商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。
 二等白米 3石 @ $\yen 33.50$ $\yen 100.50$
 三等白米 7 " @ " 32.00 " 224.00
- 10月24日 精米會社ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。

- 一等白米 5石 @ $\yen 34.50$ $\yen 172.50$
 二等白米 10 " @ " 32.00 " 320.00
 三等白米 15 " @ " 30.50 " 457.50
- 10月24日 本日現金小賣高合計 $\yen 148.90$ 也。
- 10月26日 福田商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。
 一等白米 3石 @ $\yen 35.00$ $\yen 105.00$
 二等白米 5 " @ " 33.50 " 167.50
 三等白米 10 " @ " 32.00 " 320.00
- 10月28日 本月分家賃 $\yen 40.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 10月31日 福田商店ヨリ賣掛金 $\yen 487.50$ ヲ現金ニテ受取ル。
- 10月31日 精米會社へ10月2日ノ買掛金 $\yen 930.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 10月31日 雜費 $\yen 28.95$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 10月31日 本日決算ヲ行フ、棚卸次ノ通り。
 (商品)
 一等白米 1.6石 @ $\yen 34.50$ $\yen 55.20$
 二等白米 6.2 " @ " 32.00 " 198.40
 三等白米 2.8 " @ " 30.50 " 85.40
 (什器) 原價通り。

第二例題

- (注意) { 1. 使用帳簿の種類は第一例題に同じ。
2. 本例題は第三例題に続く。

- 11月1日 現金 $\yen 2,500.00$ ヲ元入レシテ、砂糖商ヲ始ム。
- 11月1日 帳簿・文房具・郵便切手等ヲ買入レ、此代金 $\yen 11.25$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月2日 店用器具一式ヲ買入レ、此代金 $\yen 400.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月4日 山田商會ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。
精糖 100俵 @ $\yen 20.00$ $\yen 2,000.00$
粗糖 100 " @ " 16.00 " $1,600.00$
- 11月5日 開店諸入費 $\yen 20.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月7日 三河屋へ次ノ通り現金ニテ賣渡ス。
精糖 2俵 @ $\yen 22.00$ $\yen 44.00$
粗糖 3 " @ " 17.50 " 52.50
- 11月10日 木村屋へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。
粗糖 30俵 @ $\yen 17.50$ $\yen 525.00$
- 11月16日 武藏屋へ次ノ通り現金ニテ賣渡ス。
精糖 1俵 @ $\yen 22.00$ $\yen 22.00$
粗糖 2 " @ " 17.50 " 35.00

- 11月21日 町會費 $\yen 1.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月26日 山田商會へ買掛金ノ内 $\yen 1,800.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月28日 森川商店へ次ノ通り賣渡シ、代金ノ内半額ハ現金ニテ受取り、半額ハ掛トス。
精糖 50俵 @ $\yen 22.10$ $\yen 1,105.00$
- 11月29日 本月分家賃 $\yen 50.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月30日 本月分雜費 $\yen 33.21$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 11月30日 本日決算ヲ行フ、棚卸次ノ通り。

(商品)

精糖 47俵 @ $\yen 20.00$ $\yen 940.00$
粗糖 65 " @ " 16.00 " $1,040.00$

(什器) 原價通り。

第三例題

- 12月1日 前日ヨリ繰越ノ資産・負債ヲ以テ營業ヲ繼續ス。
- 12月4日 木村屋ヨリ賣掛金 $\yen 525.00$ ヲ現金ニテ受取ル。
- 12月5日 三河屋へ次ノ通り現金ニテ賣渡ス。
 精糖 2 俵 @ $\yen 22.00$ $\yen 44.00$
 粗糖 2 " @ " $\yen 17.60$ " $\yen 35.20$
- 12月8日 自轉車修繕費 $\yen 1.20$ ヲ現金ニテ支拂フ
- 12月10日 森川商店へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。
 精糖 30 俵 @ $\yen 22.10$ $\yen 663.00$
 粗糖 20 " @ " $\yen 17.60$ " $\yen 352.00$
- 12月15日 岡村商店ヨリ次ノ通り掛ニテ買入ル。
 精糖 100 俵 @ $\yen 20.50$ $\yen 2,050.00$
- 12月20日 森川商店ヨリ先月28日ノ賣掛金 $\yen 552.50$ ヲ現金ニテ受取ル。
- 12月21日 武藏屋へ次ノ通り現金ニテ賣渡ス。
 精糖 5 俵 @ $\yen 22.50$ $\yen 112.50$
 粗糖 3 " @ " $\yen 18.00$ " $\yen 54.00$
- 12月22日 町會費 $\yen 1.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。

- 12月23日 木村屋へ次ノ通り掛ニテ賣渡ス。
 精糖 30 俵 @ $\yen 22.50$ $\yen 675.00$
 粗糖 20 " @ " $\yen 18.00$ " $\yen 360.00$
- 12月25日 山田商會へ買掛金殘額 $\yen 1,800.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 12月28日 本月分家賃 $\yen 50.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 12月31日 本月分雜費 $\yen 28.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
- 12月31日 本日決算ヲ行フ、棚卸次ノ通り。
 (商品)
 精糖 80 俵 @ $\yen 20.50$ $\yen 1,640.00$
 粗糖 20 " @ " $\yen 16.00$ " $\yen 320.00$
 (什器) 棚卸價額ハ原價ノ五分引トス。

第十六課 單式簿記と複式簿記

35. 單式簿記 簿記には單式簿記と複式簿記との別がある。單式簿記はこれまで學んで來た簿記法で、主に小賣商人のやうな記帳計算の簡便を望む事業の會計に適用せられる。今、その要點を記せば次のやうである。

1. この簿記では、現金の收支は現金出納帳に、商品の仕入は仕入帳に、その賣上は賣上帳に記帳し、又取引先との貸借關係は先づ日記帳に記帳し、それから元帳に轉記する。
2. 一定期末に決算を行ふには、先づ上記の諸帳簿を締切つて、現金の残高、商品の仕入高・賣上高並に賣掛金・買掛金の残高を見出し、次に商品その他の物件の在高を實地に調査して確め、これ等から決算表を作つて、その期間の純損益と期末の財産状態とを明らかにする。

36. 複式簿記 以上のやうに、單式簿記の各帳簿は或特定財産の收支を明らかにするに止まり、全帳簿の間には連絡がないから、記帳に誤があつても、これを發見することは容易でない。又、決算表を作るには、必要な資料を一々各帳簿や棚卸表か

ら求めなければならないから、自然或項目を洩らす虞がある。殊に、商店にとつて大切な損益計算書を正しく作することは、極めて困難である。このやうな缺點を有する單式簿記は、大規模複雑な事業の會計には不適當であるから、一層進歩した簿記法を適用することが必要であり、これは即ち複式簿記である。以下順次これを説明しよう。

第十七課 勘定口座

37. 勘定口座 複式簿記では取引によつて、財産に變動を生じ、又損益を生じたとき、これ等を細大洩らさず記録計算する。この記録計算は、財産や損益を適當に分類して各項目別に行はれる。この各項目別の記録計算を行ふため、帳簿上に設けられる場所を勘定口座といふ。

勘定口座の形式は、既に第八課で示した口座の形式と同じでよいが、複式簿記では一般に下の形式のものを用ひ、その左側を借方、右側を貸方と名附ける。

(借方) × × 勘定 (貸方)

日附	摘要	丁數	金額	日附	摘要	丁數	金額

38. 借方・貸方の意味 こゝに借方・貸方といふ用語には、その本來の意味があるわけでない。既に學んだやうに、單式簿記の元帳口座では、借方・貸方といふ語は取引先の側から見た借・貸を意味するけれども、複式簿記ではこの用語を、たゞ傳統的に總べての勘定口座へ適用したまでのことであつて、口座の左方・右方を示す語であるに過ぎない。

第十八課 取引の二重性

39. 取引の二重性 總べて取引は次の例に示すやうに、資産・負債や資本金又は損益に同額の二方面の變動を與へるもので、これを取引の二重性といふ。

[例 1.] 商品ヲ買入レ、此代金 $\$100.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。

この取引は、一方に商品なる資産を $\$100.00$ 増加させ、他方に現金なる資産の同額を減少させる。

[例 2.] 商品ヲ買入レ、此代金 $\$120.00$ ハ掛トス。
この取引は、一方に商品なる資産を $\$120.00$ 増加させ、他方に買掛金なる負債の同額を増加させる。

[例 3.] 買掛金 $\$80.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。
この取引は、一方に買掛金なる負債を $\$80.00$ 減少させ、他方に現金なる資産の同額を減少させる。

[例 4.] 現金 $\$1,000.00$ ヲ元入レス。
この取引は、一方に現金なる資産を $\$1,000.00$ 増加させ、他方に資本金の同額を増加させる。

[例 5.] 店主へ家計用ノタメ現金 $\$200.00$ ヲ拂渡ス。

この取引は、一方に資本金を $\$200.00$ 減少させ、他方

に現金なる資産の同額を減少させる。

[例 6.] 家賃 $\$50.00$ ヲ現金ニテ支拂フ。

この取引は、一方に家賃なる損費を $\$50.00$ 増加させ、他方に現金なる資産の同額を減少させる。

[例 7.] 貸金ノ利息 $\$20.00$ ヲ現金ニテ受取ル。

この取引は、一方に現金なる資産を $\$20.00$ 増加させ、他方に利息なる利益の同額を増加させる。

要するに、取引は總べて、

一方に		他方に
$\left. \begin{array}{l} \text{資産の増加} \\ \text{負債の減少} \\ \text{資本金の減少} \\ \text{損費の發生} \end{array} \right\}$	のいづ れかが 起れば	$\left. \begin{array}{l} \text{資産の減少} \\ \text{負債の増加} \\ \text{資本金の増加} \\ \text{利益の發生} \end{array} \right\}$
のいづれか を同時にひ き起す。		

複式簿記では、このやうに取引の二方面の變動をそれぞれ適當な勘定口座を設けて記録計算するのである。

練習問題

第十五課第一例題の各取引につき、その二重性を明らかにせよ。

第十九課 仕 譯

40. 仕譯 前に述べたやうに、取引は二重性を有し、或勘定口座の左方と他の勘定口座の右方とに記録せられるから、取引を正しく記録するには、それが如何なる勘定口座の借方と又他の如何なる勘定口座の貸方とに各、幾何額の記録を行ふべきかを定めなければならない。このやうに、取引を借方と貸方とに分けて、それが記入せらるべき勘定口座とその金額とを定めることを仕譯といひ、次の法則によつて行ふ。

41. 仕譯の法則

- (一) 資産の増加は借方で、その減少は貸方
- (二) 負債の増加は貸方で、その減少は借方
- (三) 資本金の増加は貸方で、その減少は借方
- (四) 損費の発生は借方で、利益の発生は貸方

42. 仕譯の形式 取引の仕譯は、次のやうな形式で行はれる。

[例] 商品 ¥100.00 ヲ買入レ、此代金ヲ現金ニテ支拂フ。

(借) 商品 ¥100.00 (貸) 現金 ¥100.00

これは、商品勘定口座の借方へ ¥100.00、現金勘定口

座の貸方へ ¥100.00 をそれぞれ記入する意味であるから、この仕譯から勘定口座へは次のやうに轉記せられる。

(借)	商 品	(貸)	(借)	現 金	(貸)
	現金 100.00				商品 100.00

43. 貸借平均の理 取引を勘定口座に記入するときは、必ず或口座の借方と他の口座の貸方とに複記せられ、しかも貸借雙方の金額は相等しい。それ故、如何に多數の取引記帳を重ねても、全體の勘定口座について見れば、借方側の合計と貸方側の合計とは、必ず平均する。これを貸借平均の理といふ。複式簿記では、これによつて記帳の正否を檢算することが出来る。

練習問題

第十五課第二例題及び第三例題の各取引を仕譯し、勘定口座を設けて轉記せよ。



高等小學
簿記教科書
第一學年兒童用

不許複製

初

定價金拾參錢

昭和十二年三月二十二日印刷
昭和十二年三月二十九日發行



著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者 大日本圖書株式會社

代表者 取締役社長 杉山常次郎

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者 青木弘

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 大日本印刷株式會社

發行所

東京市京橋區銀座一丁目五番地

大日本圖書株式會社

振替口座〔東京二一九番〕 電話京橋二七三番二七四番

